

# グリーンイベントガイドライン おかやま

\*\*\* 低炭素社会の実現に向けて \*\*\*

地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる重要な環境問題であり、その原因は人間の諸活動に起因する温室効果ガスの増加とされています。

今後、このまま温室効果ガスの排出を削減できなければ、さらに気候が変動し、これまでにない自然災害などが発生することが予想されており、わたしたちは、社会・経済活動、そして個人の日常生活におけるあらゆる場面において、温室効果ガスの排出を最小化するための配慮を徹底し、着実に実践する必要があります。

このような観点に立ち、県内各地で開催されるイベントにおいても、資源の大切さや地球温暖化防止の意識を高め、環境に配慮した取組を実践していくため、このガイドラインを策定しました。

平成 2 1 年 1 0 月 (初版)



岡 山 県

## 1 はじめに

このマニュアルには、環境に対する影響をできるだけ少なくイベントが実施できるよう、主催者が取り組むべき内容を掲載しています。イベントを開催するときはその取組事項に沿ってできる限りのことを実践しましょう。

## 2 取組事項

### ① 自然環境への配慮

人と環境・地域にやさしいイベントにします。



### ② ごみ削減とリサイクル

ごみの削減に努めるとともに、できるだけリサイクルします。



### ③ 交通手段の工夫

公共交通機関や自転車等の利用を促します。



### ④ 省資源・省エネルギー

資源やエネルギーの使用を減らし、できるだけ自然エネルギーで賄います。



### ⑤ 参加者への環境意識啓発等

参加者へ環境配慮の取組を積極的にアピールします。

### ⑥ 運営体制の整備

取組事項が実行されるよう運営体制（責任体制）を整えます。

## 3 グリーンイベント登録手続きの流れ

- (1) 主催者はチェックシートで取り組む内容を決め、記載したチェックシートを事務局に提出します。（登録には、上記6分野全てに少なくとも1項目以上、取組があることが条件となります。）
- (2) 事務局は、ホームページ上にイベントグリーン化宣言されたイベントを掲載します。
- (3) 主催者は取組項目数に応じたグリーンイベントマークをポスター、チラシ等に使用することができます。（別途、事務局に申請が必要です。）  
また、ガイドラインの利用にあたって、アドバイスが必要な場合は、事務局に支援を要請することができ、その場合、事務局はグリーンイベントアドバイザーを紹介します。（アドバイザーの派遣等にかかる費用は、主催者の負担になります。）
- (4) 主催者はイベント実施後、取組項目の実施状況を事務局に報告し、事務局はその取組結果をホームページに掲載します。

| グリーン<br>レベル | グリーン<br>宣言度 | 実施項目数（全53項目）   |
|-------------|-------------|----------------|
| 1           | ♻️          | 20%未満（6～10項目）  |
| 2           | ♻️♻️        | 20%以上（11～20項目） |
| 3           | ♻️♻️♻️      | 40%以上（21～30項目） |
| 4           | ♻️♻️♻️♻️    | 60%以上（31～40項目） |
| 5           | ♻️♻️♻️♻️♻️  | 80%以上（41項目以上）  |

グリーンイベントマーク  
(グリーンレベル5の例)



□基本項目 24項目 ◇発展項目 29項目

#### 4 個別取組事項

(1) 自然環境への配慮(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 5項目)

イベントの開催にあたっては、可能な限り自然環境へ配慮した計画をたて、人と環境・地域にやさしいイベントを実施します。

- 会場及び周辺の自然環境にできるかぎり配慮したイベントを計画します。
- 自然や生態系にはできるだけ手を加えないようにします。
- 自然に手を加えた場合は、回復に努めます。
- 会場設営にあたっては、既存施設の活用や再生利用可能な資材・物品や地元で供給可能な食材を使用し、自然環境への影響を最小限にします。
- ◇会場施設の整備にあたっては、地形の著しい改変をできるかぎり避けるなど、自然や生態系、景観等に配慮した工法をとります。

(2) ごみ削減とリサイクル(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 15項目)

イベントでは大量のごみが発生します。イベントの開催にあたっては、「3R＝(リデュース:ごみを減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再資源化する)の考え方」に基づき、ごみの削減に努め、やむを得ず発生した場合は可能な限りリサイクルしてごみの排出量を少なくします。

- チラシや資料等の印刷物は作成部数を必要最小限にします。
- イベントの案内はインターネット、電子掲示板等の電子情報を活用します。
- ポスター、チラシ等の配布物は、再生紙・再生品を利用します。
- ごみは、分別回収ボックスを設置し、イベント会場の市町村のルールに沿ってきちんと分別します。
- あまったチラシや資料等は、主催者が持ち帰り、再使用・再生利用します。
- マイバッグ、マイ箸、マイ水筒、マイカップ等の持参を呼びかけます。
- 看板、パネル、会場装飾等の資材や展示物は、既存のものまたは再利用できるものを活用します。
- ◇両面印刷やプロジェクターを活用し配付資料をできるだけ削減します。

- ◇参加者に分別回収への協力を促し、わかりやすい案内表示に努めます。
- ◇参加者や出展者に「ごみの持ち帰り」を求めます。
- ◇出展者等に簡易包装を求めます。
- ◇飲食に使用する容器は、リユース(再利用)食器を利用することを求めます。
- ◇リユース食器を利用できない時は、紙や生分解性プラスチックなど環境に配慮したものを使用します。
- ◇カン、ビン、ペットボトル、牛乳パック類、割箸などは分別してリサイクルに協力します。
- ◇食べ残しなどの生ゴミは、できるだけ環境に負荷がかからない処理方法を検討します。

(3) 交通手段の工夫(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 10 項目)

イベント会場には大勢の人が様々な交通手段を使って来場します。とりわけ、自動車の利用は、排ガスによる大気汚染や騒音、交通渋滞の原因になるだけでなく、使用する化石エネルギーの量も多く地球温暖化の原因にもなります。イベントの開催にあたっては、公共交通機関や自転車等の利用を促し環境負荷をできるだけ小さくします。

- 徒歩、自転車、公共交通機関での来場を呼びかけます。
- 駐車場における、アイドリング・ストップを呼びかけます。
- シャトルバス、パークアンドライドの導入、自動車の乗り合わせなど効率的な交通手段を提案します。
- ◇会場は公共交通機関を利用しやすい開催場所を優先的に選定します。
- ◇公共交通機関やシャトルバスの運行情報をチラシやポスターに掲載します。
- ◇公共交通機関での参加者には、何らかの特典を設けます。
- ◇交通経路の情報提供を実施するとともに、必要に応じて交通整理員を配置します。
- ◇スタッフの移動にも徒歩、自転車、自動車の乗り合わせを徹底します。
- ◇環境配慮型駐車場(駐車エリア)を設定します。[エコカー、乗合せ3人以上など]
- ◇資材の運搬やスタッフの移動の際は、できるだけ電気自動車、ハイブリッド車などの低公害車を活用します。

(4) 省資源・省エネルギー(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 10 項目)

イベントでは、多くの資源やエネルギーを使用します。イベントの開催にあたっては、資源やエネルギーを大切に使用し、使用の削減に努めます。また、可能な限りエネルギーは自然エネルギーで賄います。

- 資源やエネルギーの使用をできる限り抑えます。
- 資材、物品等の購入にあたっては、環境に配慮したものを優先的に購入します。

- 冷暖房温度を適切に管理し、必要最小限の使用とします。
- 印刷物には再生紙、エコインクなど環境に配慮した素材を使用します。
  - ◇資材、物品等はできるだけ地域で生産されたものを調達するよう努めます。
  - ◇機器の使用や調達に関しては、省エネルギー機器を優先的に扱います。
  - ◇省資源型設備の整備された施設を優先的に選定したり、設備導入の際には、節水型トイレや雨水利用システム等を検討します。
  - ◇記念品やスタッフジャンパー等は環境にやさしい製品とします。
  - ◇照明・音響は過大とならないよう努めます。
  - ◇会場の照明、動力源等に再生可能エネルギー[太陽光発電、BDF(バイオディーゼル燃料)発電、風力発電、太陽熱]を活用します。  
(グリーン電力証書<自然エネルギーで発電された電力の環境価値を証書化し、取引できるようにしたもの>の購入等を含む。)

(5) 参加者への環境意識啓発等(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 6項目)

イベントには多くの人に参加し、環境保全に対する理解や実践活動を促進するよい機会になります。イベント開催にあたっては、参加者へ環境配慮の取組を積極的にアピールします。

- 環境に配慮したイベントであることをポスター、チラシに明記してPRします。
- 環境配慮の取組を会場内の掲示等によって参加者に伝え協力を求めます。
- ポイ捨て防止のため、喫煙場所を設定します。
  - ◇資料等に環境保全のメッセージや身近な実践活動を表示します。
  - ◇イベント終了後に、参加者や出展関係者と共同で清掃活動を実施する等環境への意識啓発に努めます。
  - ◇CO2排出量を(簡易)算定し、主催者及び参加者によるカーボンオフセット(後述)に取り組みます。

(6) 運営体制の整備(取組項目数 \_\_\_\_\_ 項目 / 7項目)

取組事項が効果的に実行されるために、計画、準備の段階から開催、終了後まで運営体制(責任体制)を整えます。

- 環境配慮を進めるための体制を組織し、企画段階から環境に配慮します。
- 環境配慮を推進する責任者を決めて、進行管理を行います。
- スタッフ各人が環境配慮のイベントであることを自覚し、実践します。
  - ◇実施計画、運営マニュアル等において、環境取組項目を明記します。
  - ◇スタッフや出展者等に取組項目等を事前に説明し、環境取組の徹底を図ります。
  - ◇各種ボランティア団体等との連携・協働を図ります。
  - ◇環境配慮の取組実績を記録し、今後の開催に役立てます。(ごみの発生量、資源・エネルギーの使用量等)

## 5 CO2排出量の推計

イベント等を開催すると、エネルギー（電気・ガソリンなど）使用によるCO2が排出されます。排出量を実際に測定することは困難な場合が多いため、おおむねの排出量を次のとおり計算してみましょう。

### (1) 主催者による排出分について（簡易積算例）

会場の（延床）面積が分かる場合

- ・ オフィスビルの会議室等使用例

（排出係数推計値） （利用時間）

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \times 0.051 \times \underline{\hspace{2cm}} \text{ 時間} = \boxed{\hspace{2cm}} \text{ kgCO}_2$$

（（財）省エネルギーセンター「オフィスビルのエネルギー消費構造調査結果」により推計）

- ・ ホテル等の会議室・ホール使用例（岡山県内ホテル事例等から推計）

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \times 0.034 \times \underline{\hspace{2cm}} \text{ 時間} = \boxed{\hspace{2cm}} \text{ kgCO}_2$$

- ・ コンベンションホール使用例（岡山県内大規模展示場事例等から推計）

$$\underline{\hspace{2cm}} \text{ m}^2 \times 0.027 \times \underline{\hspace{2cm}} \text{ 時間} = \boxed{\hspace{2cm}} \text{ kgCO}_2$$

（一般的な参考事例）

- ・ 数万人規模の野外コンサート：約5,000kWh × 0.555 = 2,775kgCO<sub>2</sub>
- ・ 数千人規模のシンポジウム：約2,000kWh × 0.555 = 1,110kgCO<sub>2</sub>
- ・ 数百人規模の小さなイベント：約1,000kWh × 0.555 = 555kgCO<sub>2</sub>

### (2) 来場者による排出分について（簡易積算例）

- ・ 来場者数に応じて、次の割合により計算してみましょう。

（来場者数） （構成割合） （燃料消費量等） （排出係数）

<参考比率>

|     |        |  |   |             |       |   |      |   |         |   |                   |
|-----|--------|--|---|-------------|-------|---|------|---|---------|---|-------------------|
| 自動車 | 10km圏内 |  | × | <u>    </u> | <50>% | × | 2 L  | × | 2.3 =   | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
|     | 20km圏内 |  | × | <u>    </u> | <30>% | × | 4 L  | × | 2.3 =   | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
|     | 30km圏内 |  | × | <u>    </u> | <7>%  | × | 6 L  | × | 2.3 =   | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
|     | 40km圏内 |  | × | <u>    </u> | <5>%  | × | 8 L  | × | 2.3 =   | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
|     | 50km圏内 |  | × | <u>    </u> | <3>%  | × | 10 L | × | 2.3 =   | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
| 鉄道  |        |  | × | <u>    </u> | <2>%  | × | km   | × | 0.019 = | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |
| バス  |        |  | × | <u>    </u> | <1>%  | × | km   | × | 0.053 = | <input style="width: 80px;" type="text"/> | kgCO <sub>2</sub> |

合 計  kgCO<sub>2</sub>

（注）参考比率は、エコファスタ2008（コンパックス岡山）来場者アンケート結果から推計しています。  
会場の立地条件等により構成割合は調整してください。

## 6 カーボンオフセット

イベント等を開催すると多くのCO<sub>2</sub>が排出されますが、これを様々な取組を行うことで埋め合わせて、できるだけゼロに近づけることが求められています。

(これをカーボンオフセットといいます。)

主催者、参加者が、イベントの開催に係るCO<sub>2</sub>の排出量を意識し、それぞれが取組を行うことで、カーボンオフセットを進めていきましょう。

### (1) 主催者によるカーボンオフセット

- ・主催者・出展者のエネルギー使用量を計算する。
- ・出展者・参加者へカーボンオフセットへの取組を呼びかける。
- ・太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入する。
- ・グリーン電力証書(自然エネルギーで発電された電力の環境価値を証書化し、取引できるようしたもの)を購入する。
- ・事務所等で省エネなどの取組を行い、CO<sub>2</sub>の排出量を削減する。

### (2) 来場者によるカーボンオフセット

- ・イベント参加のためのエネルギー使用量を計算する。(交通機関利用)
- ・家庭における取組を行う。(冷暖房温度、待機電力、エコドライブなど)
- ・緑の募金活動への協力や森林里山の保全活動に参加する。

### (CO<sub>2</sub>の算出方法例)

|           |                      |                |                              |   |                      |   |
|-----------|----------------------|----------------|------------------------------|---|----------------------|---|
| 電力        | <input type="text"/> | kWh            | (排出係数)<br>× 0.555            | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| ガス(都市・LP) | <input type="text"/> | m <sup>3</sup> | (都市ガス) (LPガス)<br>× 2.1または6.5 | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| 水道        | <input type="text"/> | m <sup>3</sup> | × 0.36                       | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| ガソリン      | <input type="text"/> | ℓ              | × 2.3                        | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| 軽油        | <input type="text"/> | ℓ              | × 2.6                        | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| 灯油        | <input type="text"/> | ℓ              | × 2.5                        | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
| ごみ        | <input type="text"/> | kg             | × 0.34                       | = | <input type="text"/> | kgCO <sub>2</sub>                         |
|           |                      |                |                              |   |                      | 合計 <input type="text"/> kgCO <sub>2</sub> |

(例:10km/ℓの自動車イベント会場まで往復20km走れば2ℓの消費です。)

<家庭における1人1日1Kg CO2削減生活への取組例> (出典：環境省ホームページ)

| 削減項目                             | CO2削減量(g) |     |
|----------------------------------|-----------|-----|
| 毎朝のシャワータイムを1分短く                  | -74       |     |
| 冷蔵庫を省エネタイプにする                    | -132      |     |
| 冷蔵庫は壁から離す                        | -19       |     |
| 冷蔵庫の中を詰め込み過ぎない                   | -18       |     |
| 運転中は常に急な加速をしないよう心がける             | -73       |     |
| 発進時はふんわりアクセル「eスタート」をする           | -207      |     |
| 車のアイドリングを5分短く                    | -63       |     |
| 出かけるときは電気機器の主電源をこまめに切って待機電力を節約する | -65       |     |
| 暖房の設定温度は22℃から20℃に2℃低くする          | -96       | -90 |
| 冷房の設定温度は26℃から28℃に2℃高くする          | -83       |     |
| 1日の冷房の使用時間を1時間分減らす               | -26       | -32 |
| 1日の暖房の使用時間を1時間分減らす               | -37       |     |
| お気に入りのマイバックでお買い物、お店では包装の少ない品物を選ぶ | -62       |     |
| 1日のパソコンの使用時間を1時間減らす              | -13       |     |
| 家に帰ってまず点ける部屋の明かりを電球型蛍光灯に替える      | -45       |     |
| 残ったご飯をジャーで保温しないようにする             | -37       |     |
| 食器を洗うガス給湯器の温度を低く設定する             | -29       |     |
| ごみの分別を徹底して廃プラスチックをリサイクルする        | -52       |     |
| 電球（蛍光灯）を早く消して寝る                  | -2        |     |
| 合計                               | -1013     |     |

問い合わせ先（事務局）

岡山県環境文化部環境企画課新エネルギー・温暖化対策室  
〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4-6  
TEL: 086-226-7298 FAX: 086-231-8094  
メールアドレス: ontai@pref.okayama.lg.jp